

かわら

川原遺跡 発掘調査だより

2024.6.21

川原遺跡の調査が終了しました。

令和4年度から開始した川原遺跡の調査が今年6月にすべて終了しました。長い期間の調査中、地域の皆様、関係各所にはご理解とご協力をいただきました。ありがとうございました。

令和4年度からの調査を振り返ってみましょう。

<弥生・古墳時代の墓域・集落域の発見と百済土器の出土>

当初川原遺跡は、過去の調査例から縄文時代中期後半から後期、弥生時代中期頃の集落遺跡と考えていました。しかし、令和4年の調査では古墳時代中期（約1500年前）の^{たてあな}竪穴建物跡4軒、^{ほったてばしら}掘立柱建物跡1棟、^{ほうけいしゅうこう}弥生時代後期～古墳時代前期（約1700年前）のお墓である方形周溝墓を5基確認しました。

なかでも古墳時代の竪穴建物跡からは今の韓国西部にあった^{くだらこく}百济国（4世紀～660年までの間）で作られた百济土器の^{わん}盥が出土しました。飯田市内で3例目、東日本で5例目の百济土器になります。飯田地域の古墳時代を考えるうえで非常に重要な発見となりました。



多くの土器が見つかった竪穴建物跡（SB3）



百済土器が出土した竪穴建物跡（SB4）

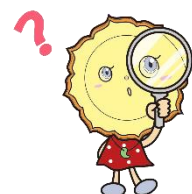


掘立柱建物跡（ST1）

人が立っているところが建物の柱の跡



百済土器 盥



＜縄文時代後期の集落・配石遺構を調査＞

令和 5 年度の調査では縄文時代後期（約 4500 年前）の集落、配石遺構の調査を行いました。より天竜川に近い遺跡西側で多くの遺構を検出し調査を行った結果、縄文時代後期の敷石住居跡 3 軒、配石遺構 24 基を確認しました。なかでも敷石住居跡は当該期の下伊那地域では類例が少なく貴重な資料となりました。また、埋設土器が 6 基みついています。そのなかの一つから青森県を中心に北東北地域に分布する十腰内式土器に似た土器が出土しました。壺形の土器で出土状態からお墓に使用したと考えています。

縄文時代後期のものであると考えられますが、どのような性格の施設であるかは結論に至っていません。

川原遺跡は遠隔地との交流を持った遺跡であることがわかってきました。また、遺跡は集落域（縄文時代）→墓域（弥生時代）→集落域（古墳時代）と土地利用が変化したことがわかりました。天竜川の恵みを受けながら人びとは生活していたことが想像できます。

今後は、調査成果をまとめた報告書を作成するために整理作業を行います。



敷石住居跡（SB8）住居の壁際に石を並べている



弧状に立石を並べた配石遺構（SH22）

～川原遺跡のスナップ写真～



遺跡では様々な生き物とも出会いました。



十腰内式土器に影響を受けた土器（復元後）

（7月9日から9月1日まで飯田市上郷考古博物館で展示予定です！）

長野県埋蔵文化財センター 飯田支所

担当：春日、遠藤

TEL:0265-49-0736

メール:maibun@naganobunka.or.jp

H P:https://naganomaibun.or.jp